

幸先の良いスタート！

Great start for the new M1!

— 日本造園学会アイデアコンペ優秀賞受賞 —

— Win the competition of Landscape Architecture —

2013 年度 M1 最初のプロジェクトとして参加した、「平成 25 年度日本造園学会全国大会学生公開アイデアコンペー江戸文化の中心地『日本橋』という町をランドスケープの力でバリューアップするー」で見事優秀賞を受賞しました。

日本橋に真摯に向き合った 1 ヶ月

text_douki

造園学会が主催する今回のコンペは、日本橋を中心としたエリアを対象とする街のブランディングに寄与するプランニングとランドスケープ・デザインに関して実施されました。4 月から取り組み始めたこのコンペは 5 月中旬に 1 次審査、5 月 24 日に東京証券会館にて二次審査としてプレゼンテーションが行われ、審査員によるパネルディスカッションの後、結果発表が行われました。その翌日、千葉大学西千葉キャンパスでの表彰式にて優秀賞を受賞しました。歴史が空間として積み重なり層を成している日本橋に 3 つの空間操作を行うことによって、普段は気づきにくい層を実感できるような空間を作り出した提案は、実現可能性や歴史に対するアプローチなどで評価されました。

今回デザ研の M1 に B4 や他研究室の M1 も加わり、コンペに参加するだけでなく交友を深めることもできました。また、コンペ参加決定から提出締め切りまで 1 ヶ月という短い時間の中でも、何度も現地調査へ行き、提出直前までコンセプトについて悩み抜いたことは貴重な経験になりました。



▲二次審査後に全員で記念写真



▲提出したパネル、タイトルは「深層への門」



▲日本橋を橋詰めから眺める



▲表彰を受ける高梨くん

メンバー受賞の声

瀬川 明日奈 Segawa Asuna 都市デザイン研究室 M1
本格的なコンペに取り組むのは今回が初めてだったので、過程から学ぶだけでなく結果も出すことができ、うれしく思います。また、初めてパースを描くなど、個人的にチャレンジの多いコンペでしたが、微力ながらチームに貢献することができて良かったです。みなさま本当にお疲れ様です。

高梨 遼太郎 Takanashi Ryotaro 都市デザイン研究室 M1
初めてのコンペ、初対面のメンバー、学会側も新しい取り組み、長期不在の先生と、不安要素満点で始まった挑戦でしたが、運良く色々な要素がプラス方向に傾いた気がします。変に頑固なのにやりたいことがはっきりしておらずチームには迷惑かけましたが僕は楽しかったです。ありがとうございました。

道喜 開視 Douki Kaiji 都市デザイン研究室 M1
日本橋は卒業設計でも取り組んだしいけるだろうと意気揚々としていた気持ちは、初めてのコンペで勝手がわからず時間も足りないという現実を前にしてすぐさま消え去りました。その中でも歴史やランドスケープについてじっくりと考えたこと、結果が出たことはこれからの糧になると思います。

商 埜穎 Sho Ikue 国際都市計画・地域計画研究室 M1
歴史に強弱をつけずに積層されている時代を体感できるような操作を考えることが楽しかったです。都市工に来てすぐ取り組んだコンペだったので新しい仲間が出来ると共に、チームの中で自分を生かせるところはどこか、どんなことをもっと勉強したら良いのかヒントを得ることが出来ました。

原 由希子 Hara Yukiko 都市デザイン研究室 B4
まず日本橋という敷地がむずかしく、さらに始めたのも 4 月と遅かったので、最初は正直終わるのか？とばかり思っていました。なんとか終わり最終審査にまで残り、賞までいただけで本当に驚いています。夜ごはんも食べずに作業し、ともに頑張ったメンバーに感謝の気持ちでいっぱいです。

本間 百合 Homma Yuri 空間計画研究室 M1
建築分野のコンペの参加経験のみだったので都市計画ではどのようにデザインを組み立てていくのか学びたいと思い参加しました。場所ごとのデザインに終始せず統合するストーリーをつくる点で、それを形に直結させることの難しさを感じましたが、審査講評や他の案を総じてとても勉強になりました。

心地よい人の居場所の探求

Finding comfortable places for people

学部3年演習の講師である仲田康雄先生(設計事務所株式会社ディーディーディー共同主宰)に仕事について語って頂きました。

ひとの居場所に興味を持ち、建築か都市工かで随分迷いましたが、個から全体のあり方を考えていこうと思い、建築学科に進むことに決めました。卒業後は、榎文彦氏のもとで14年間、都市と建築、公共空間がどうあるべきかを学んだ後、現在は大学時代の友人と設計事務所を主宰しています。

最近、今まで見過ごされてきたひとと建築、都市との新たな関係性を生み出せないかと、日々模索を続けています。

青森市に建つ「ねぶたの家 ワ・ラッセ」は、祭で実際に運行された「ねぶた」を翌年まで展示する施設ですが、市民がふらっと気軽に立ち寄りたくなるような場を求められました。当初は、火祭りだから閉ざされた暗い部屋の中で鑑賞するものだと思い込んでいましたが、市民の誇りである「ねぶた」を閉ざされた箱の中に閉じ込めて、市民から切り離すのではなく、どこからでもその存在が感じ取れるべきではないかと気づき、開かれた展示空間を提案しました。各部屋からだけでなく、駅のホームや隣接する広場からも垣間見ることができ、観光客だけでなく、市民にとってもねぶたと共にゆっくりと時を過ごす場となっています。

立地やプログラムは様々で正解はありませんが、これからも建築を志した当初の思いを忘れず、心地よいひとの居場所について考えていきたいと思えます。



▲ワ・ラッセ 青森を喚起させる外観



▲格子を通して広場とつながる



▲「ねぶた」を感じる

プロジェクト報告

プロジェクト新展開続々！

New developments in Projects

新しい疑問に、新しいメンバー。夏に向けて、新たな展開を見せる各プロジェクトの今をお伝えします。



大槌 Otsuchi-project

text_fukushi

6月16日(日)から18日(火)にかけて、大槌プロジェクトの現地調査を行いました。吉里吉里地区では、これまでの調査をふまえ地域の歴史や暮らしについて展示を行う計画に向けて、資料を所有している地元の方と打ち合わせを行いました。また、民俗芸能「黒森神楽」について神楽宿のお宅でお話を伺ったり、地元の漁業者の発案による海産物や加工品の販売所兼作業場の計画実現に向けて、他の地区で震災後に出来た店舗や不動産業者へのヒアリングもしました。

昨年地元の公民館の方々と避難行動調査を行った赤浜地区では、公民館の果たしていた機能や活動についてヒアリングを行いました。多岐に渡る調査となりましたが、震災前の暮らしを丁寧に探ることや、新しいことを始めたいという地元の方をサポートしていくことが、今後のまちづくりにつながればと思います。



▲今後の公民館のあり方を考える



▲吉里吉里の浜で調査



佐原 Sawara-project

text_koshimura

6月10日(月)に窪田先生、M2 柏原、越村、M1 高梨、小澤で佐原を訪問しました。午前中は空家活用に関する調査や住民の生活圏、駐車場に関する調査を中心しつつ、香取市都市整備課の方々と今年度の活動内容に関してお話をしました。午後は町並み保存に取り組むNPOの方々にお会いして昨年度行った橋詰空間の提案や、町並み保存の現状や取り組みに関してお話し頂いた後、その日話題に挙がった場所を回りました。

大祭や町並みをはじめとして佐原は観光地として一定程度認知されている一方で、クルマ無しには生活が成り立たなくなっている状況や、経済的な理由等から建物を維持し町並みを守っていくことが困難な状況があり、そのようなまちの抱える問題が住民の高齢化に伴ってかなり差し迫って起こっていることを強く感じる訪問でした。



▲酒造さんの蔵も見学させて頂きました



▲市役所から東を眺める

7月の予定

7月2日	第5回研究室会議
7月3日-8日	ルンビニISSC
7月10日	第6回研究室会議

Information

編集後記

道喜 開視

先日のサッカーコンフェデレーションズカップイタリア戦で日本代表は、終始試合を支配する素晴らしいパフォーマンスを見せました。完敗したブラジル戦との違いは選手達の勇敢さでした。この格上に立ち向かう勇敢さを見習いたいと思いつつも、特になかなかできなかった初めてのマガジン編集でした。